

＜第30回日本フィヒテ協会大会プログラム＞

フィヒテ没後200年記念大会 (日本フィヒテ協会第30回記念大会)

日時 2014年11月23日(日) 9:40～17:00
場所 同志社大学室町キャンパス寒梅館2階203教室

一般研究発表(9:40～11:00)

櫻井真文(同志社大学) 司会:湯浅正彦(立正大学)
「フィヒテの『新しい方法による知識学』における目的概念の意義」
石井基博(同志社大学) 司会:杉田孝夫(お茶の水女子大学)
「フィヒテとヘーゲルの国家論の差異—『自然法の基礎』と『法の哲学』を中心に—」

特別講演(11:00～12:20)

大峯 顕「知識学とは何か—フィヒテの若干のテーゼをめぐって—」
司会:長澤邦彦

昼休み/第60回委員会(12:20～13:30)

委員会会場:6階大会議室

総会・フィヒテ賞授与式(13:30～14:00)

フィヒテ没後200年記念特別講演会・シンポジウム(14:00～17:00)

—同志社大学大学院文学研究科と共催—

総合テーマ「知と絶対者」

Jacinto Rivera de Rosales (国際フィヒテ協会会長・スペイン国立遠隔教育大学教授)
Die letzten Gedanken Fichtes über die Wissenschaftslehre (Oktober 1813 - Januar 1814)

(知識学についてのフィヒテの最後の思想(1813年10月～1814年1月))

Günter Zöllner (ミュンヘン大学教授)

"Der absolute Anfänger des Seins". Fichtes letzte Gedanken über Wissen und Willen
(「存在の絶対的な創始者」—知と意志についてのフィヒテの最後の思想—)

総合司会:岡田勝明(日本フィヒテ協会会長・姫路獨協大学)

進行・通訳:美濃部仁(明治大学)、中川明才(同志社大学)

懇親会(17:30～19:30)

会場:7階 french restaurant will